

空

山の茂吉

真心を大事にする

古くて壊れかかっている

道具や器でも

大事に使うとすれば味が出る

金ピカで使い勝手のいいものも

いいけれど

そればかりじゃあない

真心を大事にしたい

表向きではないから

もっといい「自分」を

生きられる

まがじろはぶじり

(伊勢原くだけけ会にて)

「こころ」という分野

最近、電子頭脳がとてつもなく進歩して、ぼくらの若い頃50〜60年前に出会った『鉄腕アトム』や『鉄人28号』や『ロボット三等兵』なんていう漫画に登場してくるロボットにだんだんせまってくるきています。

先日、近所のスーパーマーケットにロボットがいて、そいつがお客になにかを話しかけてくると言うのですが、そのお店でアルバイトをしているりよう君によれば、「お客とぼくらのような従業員とは区別がつかない」という話をしていました。そりゃあそうですね。

また、そのロボットに何か話しかけているオジサンがいると思ってよく見たら、露木和男先生(早稲田大学教授、いつも自然観察会のご指導をいただいている先生)だった、なんていう目撃情報もありました。楽しい光景ですね。

でも現実にはロボットに「こころ」を搭載すると

考えるとまだまだなのでしようね。

「知」という認識分野は「判断する」ということで、かなりの進化をしているようです。プロ棋士をコンピューターが負かしたなんてことを聞きま

すからね。
「体」という分野でもかなり進歩しているようですが、「こころ」という分野ではどんなことになっているのでしよう。「情」とか「欲望」とか「知」とか「体」とか複雑にからみ合っているの

でしようから「こころ」はどこにあるのか難問です。ね、「意」という分野にどのように影響している

「子ども「こころ」に学ぶと

でも、四歳の孫でも確実にまちがいがなく「こころ」は働いています。

去年、ぼくの孫は10人目が生まれて、皆集まる

育っていつていることは明らかです。四歳ともなると、グルリの人との関係性はかなり進歩しています。自分の立ち位置がだんだん分かっていくようです。親への甘え方や、同世代の子どもたちとの接し方や、その他の大人たちとの心のやりとりも少しづつ進歩しているように見えます。それを見ると「こころってとても大事なことなんだ」と感ずるのです。

それでも、子どものこころって複雑ですから、親は受け取り損ないます。親としては真正面から向き合ってあげるくらいしか対処の方法は見つかりません。子どものこころは親との関係性の中で育っていくのは確かです。ですから、親の「しあわせ観」とか「価値観」とかはとても大切なこと

なのです。
何を伝えたいか？ と探していくより先に、子どものこころには伝わって行ってしまっているものがあるのです。

ま「こころ

「ま「こころ」というのは「いつわりのない心」ということの様です。真心と書くので、ほんとうの心と言ってもいいでしよう。本心とはまたちよっ

と違う意味で使っていますね。本心というのは意識的なものが含まれていて、真心というのは意識の奥と奥に与えられているそのまんまの心というイメージがあるのです。

「まごころ」がしまわれている場所が人の心のどこかにあって、そこに出会えば人は「まごころ」で生きていけるのだと思います。自分の「本心」は何なのかということを探るのも大切なことです。が、「まごころ」の在り処を覚ったら人はきつとしあわせになるのです。

まごころの在り処に出会うには方法は一つです。

出し惜しみをしない ということだと発見しました。

三つの鍵の「ケチな根性はいけない」ということに通じます。

出し惜しみと言えば、労力やお金のことだけを考慮してしまいますが、心の面でも出し惜しみになることはたくさんあります。

枠や囲いを設けて「自分だけ得しよう」とするのはスッキリしないものが残ります。それは心の出し惜しみだからにちがいません。

人といつも何かを比べて、優越感に浸っていた

いと思えばその裏返しの劣等感が存在していることはすぐ判ります。外側の評価を気にして自分を丸ごと出せないのですね。

そこで、「出し惜しみ」をすることができると少しなくなっていく魔法の言葉として、「よかつたね」「よく来たね」という二つの愛言葉を提唱しているのです。「よかつたね」と言えば全肯定されます。出し惜しみをしている場合じゃあないですね。「よく来たね」と言えば丸ごと受けいられます。安心して真の心に到達できるのです。

「教育」と言うとしても「真心」を忘れてしまえば「叱咤激励」してしまいますが、それをするのに否定から入ってしまうように心掛けるための「愛言葉」です。



山の茂吉(和田重良)

1948年、小田原生まれ。東京教育大学卒。くだけけ生活舎(神奈川県丹沢山中)を足場に共同生活(入生科や農作業中心)の実践をおして、誰ちがあんしんしてその人らしく生きることを願い、35年以上にわたって青少年や家庭の生活にさまざまなメッセージを送り続けている。